
ある皇子から一人の少女への密書

白金千乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある皇子から一人の少女への密書

【Nコード】

N3066Y

【作者名】

白金千乃

【あらすじ】

在る時代、帝国との冷戦状態にある教会のとある部屋から見つかった、ある人物からの書置き。（宛名、差出人不明。封筒に押されていたのは帝国皇族の紋章印。）

親愛なるわがままな聖女様へ

俺が貴女の元を離れて既に季節が一つ、巡った頃でしょう。
お元気でしょうか？

新しい世話係に迷惑はかけていませんか？
とりあえず、いきなり噛み付くのは良くないと思います、いろいろと。

思えば、貴女はいつもすぐに脱走をしたり傷をつくって帰ってきたり。

とにかくいつも心配ばかりでなかなか大変でした。

……特に池に落ちたときは本当に心臓が止まるかと思った。
本当だからな？

あれだけは、今後も本当勘弁してくれ。

と、失礼。

……まあ、丁寧に書いてもいまさらなので、ここからは碎けさせてもらおう。

いなくなる俺からお前に、残しておきたい言葉。

”もつと笑えよ”

お前と来たら、いつもぶすつと無表情で。

まあ、表情変わらなくてもお前は分かりやすいから、特に困らなかつただけど。

腹減ったときは特に分かりやすく助かった。
献立までは、さすがに読めなかつただけどな。

結局俺が見たお前の笑顔は数えるほどだけ。
でもさ。

それだけで十分、つて思える程。
お前の笑顔は、素敵だと俺は思う。

だから、もつと笑って欲しい。
そうじゃないと、もつたないだろ？

だからと言って、無理に笑えとは言わない。
ただ、笑いたいときには、我慢をしないで欲しい。

それだけだ。

そろそろインクもなくなるから、このあたりで手紙を終えよ

うと思う。

わがままで

無愛想で

笑顔が素敵な、一人の少女へ

俺のことは、まあ、気にせずに。

どうか、お元気で。

出来れば今後、二度と貴女と出会わないことを願って。

P・S

もしも出会ってしまったならば、躊躇わずにその剣を向けてください。

こちらの剣が、貴女を貫いてしまう前に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3066y/>

ある皇子から一人の少女への密書

2011年11月14日19時09分発行